

担い手への農地集積・集約化と農地の確保に関する次の記述A～Dのうちには妥当なものが二つある。それらを選んでいるのはどれか。

- A. 日本の農地面積は、平成2（1990）年に約520万haあったが、令和2（2020）年には、約440万haとなった。
- B. 令和2（2020）年の北海道の1農業経営体当たりの経営耕地面積は、都府県平均の約3倍となっている。
- C. 農地中間管理機構（農地バンク）は、地域内に分散・錯綜^{さくそう}する農地を借り受け、まとまった形で担い手へ再配分し、農地の集積・集約化を行っている。
- D. 農地面積に占める担い手への農地集積率は、近年上昇しており、令和元（2019）年度末時点で30％になっている。

- 1. A, B
- 2. A, C
- 3. A, D
- 4. B, C
- 5. B, D

正答 2

次の文章は、森林の遷移に関する記述である。文章中の空欄 a～c に入るものの組合せとして妥当なのはどれか。

森林の遷移が進行し、極相と呼ばれる状態になると、耐陰性の高い樹種の比率が なり、森林を構成する樹種の階層構造が になる。そのような状態において上層木が枯死すると、 更新が生じ、二次遷移が進行する。

- | | a | b | c |
|----|----|-----|------|
| 1. | 高く | 明瞭 | ギャップ |
| 2. | 高く | 不明瞭 | ギャップ |
| 3. | 高く | 不明瞭 | 萌芽 |
| 4. | 低く | 明瞭 | ギャップ |
| 5. | 低く | 不明瞭 | 萌芽 |

正答 1